

赤外線深度センサーを用いた定量的運動失調評価法の検討

研究分担者：池田 佳生（群馬大学大学院医学系研究科 脳神経内科学）



【目的】

赤外線深度センサーを備えた歩行解析装置を用いて、運動失調を客観的かつ定量的に評価する方法を確立することを目的とする。

【成果】

- ・対象者の登録と本装置による測定を行い、25名の測定を終了した。
- ・運動失調症の重症度を反映する、評価指標についての検討を行った。
- ・運動失調症における失調性歩行の定量化が可能となり、疾患の重症度を反映する結果が得られ、その成果が英文学術誌に採択された。